

熊本空襲の不発弾 解説

市民団体企画展 リーフレット作成

昨年7月、熊本市東区画図町で熊本空襲の不発弾として見つかった「M76焼夷弾」を、**「くまもと戦争遺跡を、**「くまもと戦争遺跡を、



昨年熊本市で見つかったM76焼夷弾について解説するリーフレット

開催している熊本空襲の企画展(熊本市立図書館内)で配布している。

不発弾は住宅地の下水道工事現場で見つかり、自衛隊が処理。

通常より大型で火力があるため、軍需施設の破壊などに使用されるM76焼夷弾と判明した。同ネットワークなどが米軍資料を調べ、1945年8月10日の空襲で投下された記録を初確認したという。

リーフレット(カラー、A4判見開き)は、市などから提供された不発弾の写真約10枚を

掲載、米軍資料から要約した熊本空襲の計画と被害状況などを解説している。

高谷代表(62)＝玉名市＝は「今回の調査で、軍需施設から次第に都市全体を計画的に空襲した様相があらためて見えた」と話している。高谷代表☎090(1513)5528。(堀江利雅)